食蟲目二種の染色體(豫報)*

立 石 新 吉

臺北帝國大學理農學部動物學^(比較形態學)教室^(哺乳動物學)

哺乳動物の中、食蟲目の染色體に就ての報告は他目に比し非常に貧弱である。こゝには臺灣産の食蟲目二種即ち *Crocidura (Pachyura) murina* L. (タイワンジヤコウネズミ) 及び *Mogera insularis* (SWINHOE) (タカサゴモグラ) の染色體特にその性染色體に就ての所見を豫報として述べる。材料はすべて臺北市附近に於て採集し、固定は Flemming 若しくは Champy 氏液の醋酸の量を痕跡的としたるもの、染色は Haematoxylin を専用した。

Crocidura (Pachyura) murina の第一精母細胞分裂の gemini の数は 20、この中 1 個は XY 對である。第二分裂に於ける染色體数は何れも 20、精原細胞では何れも 40 個を數へる。性染色體と認めらるゝものは精母細胞第一分裂では多く核板の周邊に位置する大形の一個の geminus である。側面より之を見れば鉤狀に屈曲する比較的大形の部即ち X と之より遙かに小形で先端直角に屈曲せる Y とが相對向して居る、即ち X も Y もその紡錘絲附着點に依つて見れば atelomitic である。metaphase に於て X と Y の連接部に於ては各 chromatid の一部が開いて輪狀部を作つて居る。KOLLER and DARLINGTON は *Rattus norvegicus* (ドブネズミ) の性染色體に就て X の短腕部と Y との間の一ヶ所に chiasma がある場合に輪狀部を生ずることを説いて居るが、この動物の場合でも同様に説明が出来るであらう。精原細胞 40 個の染色體中最大なる一個不對の染色體は恐らく X であると思はれる。

Mogera insularis に於ては精母細胞第一分裂にて 16 個の gemini が見られ性染色體は XY 型で必ずしも核板の周邊に位せずその大さは最小の geminus よりもやゝ大なる程度である。X は型的な状態では直角に屈曲する棒狀をなし一腕は分裂軸に他は分裂面に並行な位置をとり角頂に紡錘絲が附着する。分裂面に並行な腕は可成種々の屈曲程度或は形狀を示す。Y は短紡錘狀で X の分裂軸に並行なる腕の延長線上に位置し、*Crocidura (Pachyura) murina* の場合と異り常に telomitic である。

質問 (牧野佐二郎) 「幻燈にて見ると X と Y の結合の具合が變でないか」

答 「後ほどプレパラートで御覽に入れる」

質問 (島倉亨次郎) 「固定と染色の方法は」

答 「固定は酢酸を微量にした modified Champy 或は Flemming、染色はヘマトキシリン」

* Tateishi, S., On the Chromosomes of the Two Species of Insectivora (A Preliminary Note).